

追加処分に関するペナルティ・ガイドライン

(公財)日本アイスホッケー連盟審議委員会
2023年8月8日改正、2023年9月1日運用開始

このガイドラインは、あくまでも最低の試合数を定めたものであり、レフェリー報告書をもとに反則の状況、内容、程度により、ゲームスーパーバイザーを含めた懲戒委員会において十分に検討を行い、自動的な追加処分の範囲を超える場合は、さらに追加処分を加えることができるものとする。

*カッコ内の数字は、あくまでもその場合の目安の数字を示すものであり、これを超えるものを妨げるものではなく、カッコが付いていないものについても同様である。

ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科せられた選手および役員			
略称表示	条項	反則の内容	自動的な追加処分 (最低試合数)
ABUSE	39.5-I	ミスコンダクト・ペナルティを科された後も、オフィシャルの裁定に異議を唱え続けるプレーヤー。	1
ABUSE	39.5-II	ベンチ・マイナー・ペナルティを科された後に、プレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、オンアイス・オフアイス・オフィシャルに対して、卑猥な、冒瀆的な、または乱暴な言葉やジェスチャーを使用したり、オフィシャルの名前を大声で叫んだりした場合、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。試合終了後に氷上またはそれ以外の場所でこの行為があった場合には、それ以前にベンチ・マイナー・ペナルティが科されていなくても、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。	5
ABUSE	39.5-III (40)	いかなる方法であれ、オフィシャルに対して故意に身体的な力を加え、その行為がオフィシャルに負傷を与える可能性があった場合、身体的に品位を落とした場合、または口論の最中または直後に当該オフィシャルから自由になることのみを目的として故意に身体的な力を加えたプレーヤーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。	10
ABUSE	39.5-IV	ペナルティ・ボックスに入ったプレーヤーが、オフィシャルの判定に抗議するために、ペナルティ・ボックスからペナルティ終了前に出た場合。	1
ABUSE	39.5-V	レフェリーの判定に抗議して、スティックやその一部、その他の用具や物を競技エリア外に投げ出したプレーヤーには、「アンスポーツマンライク・コンダクト」のマイナー・ペナルティと、ゲーム・ミスコンダクトが科せられる。	1
ABUSE	39.5-VI	プレーヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、レフェリーのいる方向に向かって用具やその他の物体を投げたり打ったりしたが、ぶつかるまでに至らなかった場合。	3
ABUSE	39.5-VIII	選手、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者が、試合中または試合後に、氷上または氷上外で、アリーナおよびその関連施設内のあらゆる場所で、オフィシャルに対して唾を吐いたり、血をぬぐったり、卑猥な言葉や下品な言葉、虐待的なジェスチャーの使用、人種的な中傷や嘲笑、性的な発言をした場合。	10
BOARD	41.4	レフェリーは選手が無謀にもボーティングによって相手を危険にさらし、メジャーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲームミスコンダクトペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
CHARG	42.4	レフェリーは選手が無謀にもチャージングによって相手を危険にさらし、メジャーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲームミスコンダクトペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
CHE-B	43.3	レフェリーは自らの裁量により、チェックングフロムビハインドを犯し相手を危険にさらしたプレーヤーに対して、メジャー+自動的なゲームミスコンダクトペナルティを科さなくてはならない。	1(3)
CLIP	44.3	レフェリーは選手が無謀にもクリッピングによって相手を危険にさらし、マイナーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲームミスコンダクトペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
ELBOW	45.4	レフェリーは選手が無謀にもエルボーイングによって相手を危険にさらし、メジャーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲームミスコンダクトペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)

FIGHT	46.1	少なくとも1名のプレーヤーが相手を何度も殴るか殴ろうとした場合、または2人のプレーヤーが格闘し、ラインパーソンが介入して2人を引き離すことが困難な場合に、ファイティングが起きたとみなした場合	
FIGHT	46.3	いさかいの『暴動者』。いくつかを行動や態度で示したプレーヤーのこと。最初にグローブを外したこと、最初にパンチを放ったこと、威嚇的な態度や姿勢、言葉での暴動や脅し、以前の試合でのできごとに対する報復行為、以前の試合でのできごとに対する明らかに報復行為。 「いさかい」の「暴動者」とみなされたプレーヤーには、マイナー・ペナルティ（暴動者）に加え、メジャー・ペナルティ（ファイティング）、およびゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ（2+5+GMP）が科される。	3
FIGHT	46.4	明らかに勝負がついているものの、もはや身を守れないポジションにある相手にダメージを与えようとして、または負傷させようとして、何度も殴り続ける場合には、そのプレーヤーをアグレッションとみなす。 いさかいのアグレッションとみなされたプレーヤーには、マイナー・ペナルティ（アグレッション）に加えて、メジャー・ペナルティ（ファイティング）と、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティ（2+5+GM）が科される。	
FIGHT	46.5	テープなどを手（手首より下）に付けているプレーヤーが、いさかいの最中に相手を切ったり傷つけたりした場合、この規則により「ファイティング」に対するものを含めた他のペナルティに加えて、メジャーペナルティ+自動的なゲームミスコンダクトペナルティが科される。 予測していない相手や「戦闘意思のない者/相手」にパンチを与え（すなわち「不意打ちのパンチ」）、負傷させる可能性のあったプレーヤーには、メジャーペナルティ+自動的なゲームミスコンダクトペナルティが科される。	5
FIGHT	46.7	予測していない相手や「戦闘意思のない者/相手」にパンチを与え（すなわち「不意打ちのパンチ」）、負傷させる可能性のあったプレーヤーには、メジャーペナルティ+自動的なゲームミスコンダクトペナルティが科される。	3
FIGHT	46.9	試合時間外のファイティングに関わったプレーヤーにはメジャー・ペナルティとゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科すこと。	3
FIGHT	46.10	バックをドロップする前のファイティング。通常のフェイスオフの過程でバックをドロップする前に発生したいさかいは、試合開始前またはいずれかのピリオド開始前に起きた場合を除き通常のプレー時間中のものであるとしてペナルティを科すこと。	3
FIGHT	46.11	リンク外でのファイティングやリンク外にいる他のプレーヤーとのファイティングに関わったプレーヤー。	3
H-BUT	47.3	レフェリーは選手が無謀にもヘッドバットによって相手を危険にさらした場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲームミスコンダクトペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	3(5)
CHE-H	48.3	レフェリーは選手が無謀にもイリーガル・チェック・トゥ・ザ・ヘッド・オア・ネックによって相手を危険にさらした場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲームミスコンダクトペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	3(5)
KICK	49.3	プレーヤーが相手プレーヤーを「蹴る」または「蹴ろうとする」とレフェリーが判断した場合、レフェリーの裁量により、メジャー+自動的なゲームミスコンダクトペナルティを科す。	5
KNEE	50.3	レフェリーは選手が無謀にもニーイングによって相手を危険にさらし、マイナーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
ROUGH	51.3	レフェリーは自らの裁量により、ゴールキーパーがブロックグローブを使って相手を殴り、その行為が相手の負傷につながる可能性があればそのゴールキーパーにメジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科す。	2
SLEW	52.2	レフェリーは自らの裁量により、スルー・フットイングを犯したプレーヤーに対して、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科さなくてはならない。	3(5)
THR-EQ	53.5	競技エリアからスティックまたはその一部、またはその他の物を競技エリア外に故意に投げたプレーヤーは、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科される。オフィシャルの判定に抗議して行われた場合には、「アンスポーツマンライク・コンダクト」に対するマイナー・ペナルティに加えて、ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティが科される。	1
THR-EQ	53.6	レフェリーは自らの裁量により、プレーヤーが相手のプレーヤー、コーチ、またはプレーヤー以外の人員に対してスティックやそのほかの物、または用具を投げつけ、それが相手に負傷を与える可能性がある場合、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。	5
HOOK	55.3	レフェリーは選手が無謀にもフッキングによって相手を危険にさらし、マイナーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。	0(2)
INTRF	56.5	レフェリーは選手が無謀にもインターフェアランスもしくはレイトヒットによって相手を危険にさらし、メジャーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
TRIP	57.4	レフェリーは選手が無謀にもトリッピングによって相手を危険にさらし、メジャーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンダクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)

BUT-E	58.3	レフェリーは自らの裁量により、バット・エンディングを犯したプレイヤーに対して、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンタクト・ペナルティを科さなくてはならない。	3(5)
CROSS	59.3	レフェリーは選手が無謀にもクロスチェックングによって相手を危険にさらし、マイナーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンタクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
HI-ST	60.4	レフェリーは選手が無謀にもハイスティックングによって相手を危険にさらした場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンタクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	5
SLASH	61.3	レフェリーは選手が無謀にもスラッシングによって相手を危険にさらし、マイナーペナルティを科すことで十分な制裁にならないと判断した場合には、自らの裁量によりメジャー+ゲーム・ミスコンタクト・ペナルティを科してもよい。このような無謀な危険度の評価は反則の重さ、接触の重さ、暴力の程度、関連する一般的な非難に値することに基づくものとする。	0(2)
SPEAR	62.3	レフェリーは自らの裁量により、スピアリングを犯したプレイヤーに対して、メジャー+自動的なゲーム・ミスコンタクト・ペナルティを科さなくてはならない。	3(5)
UN-SP	75.5-I	ミスコンタクト・ペナルティを科されたあらゆる行為をしつこく続けたプレイヤー。	1
UN-SP	75.5-II	試合中または試合後に、氷上または氷上以外のあらゆる場所で、卑猥なジェスチャー、人種的な中傷や嘲笑、性的な発言をしたプレイヤー、コーチ、プレーしていないチーム関係者。	5
UN-SP	75.5-III	リンク内のあらゆる場所で卑猥な言葉やジェスチャーを使用した場合で、以前にベンチ・マイナー・ペナルティを科されているコーチおよびプレーしていないチーム関係者。	5
UN-SP	75.5-IV	選手、コーチ、その他プレーしていないチーム関係者が、コーチやその他プレーしていないチーム関係者に対して、何らかの形で傷害を引き起こす可能性のある行為を行った場合。	5
UN-SP	75.5-V	試合終了後、卑猥な言葉やジェスチャーを誰かに向けて行ったプレイヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者。	5
UN-SP	75.5-VI	試合中に、対戦相手やリンク内の人に唾を吐いたプレイヤー、コーチ、またはプレーしていないチーム関係者。	10
UN-SP	75.5-VII	出血しているプレイヤーが、故意に体から出た血液を相手またはリンク内の誰かに塗りつけた場合。	10